

イネの理想型根系

以下のような要領で「イネの理想型根系」と題するシンポジウムを計画しております。まだ不確定な部分を含んでおりますが、現在までの大凡の準備状況をご報告いたします(今後変更となる部分がありえます)。

目的：第2回J S R Rシンポジウム「植物根系の理想型」における成果を踏まえて、今回はイネに限定して根系に理想型があるかどうかについて様々な視点から議論することを通じて、問題点を探ることが目的であります。

日程：1994年8月22日(火)、第2回アジア作物学会議におけるミニシンポジウムとして開催予定ですので、第3回J S R Rシンポジウムと呼べませんが、根研究会ではこれに相当するものと位置付けています。

場所：福井県立大学、福井県

組織委員会：阿部 淳(東京大学)、C. Beyrouty(Univ. of Arkansas)、原田二郎(佐賀大学)、平沢 正(東京農工大学)、鯨 幸夫(金沢大学)、Y. W. Kwon(Seoul National University)、森田茂紀(東京大学)、山内章(名古屋大学)、以上A B C順

プログラム：

星川清親(日本作物学会会長、東北大学農学部)：根系からイネの生育や収量を考える場合の視点について、全体のイントロをお願いする。

原田二郎(佐賀大学農学部)：茎葉部との関連も含めて根系の発育形態という視点から、その理想型を考える場合の話題提供をお願いする。

平沢 正(東京農工大学農学部)：個体全体の水分生理という視点から、機能的にみた場合の根系の理想型についての話題提供をお願いする。

Len Wade(国際イネ研究所)：I R R Iにおいて行なわれているイネの育種・栽培研究を踏まえて、根系に関する話題提供をお願いする。

Jin Chul Shin(韓国国立農業試験場)：韓国での稲作を前提として、地上部/地下部関係という視点に着目して、話題提供をお願いする。

Craig Beyrouty(アーカンサス大学)：アメリカの稲作を前提として、発育形態学および植物栄養学的な視点からの話題提供をお願いする。

最後に、組織委員を含めたパネルディスカッションを予定しています。